

平成16年6月30日

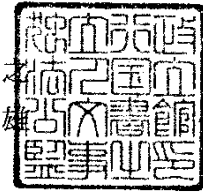
内閣府独立行政法人評価委員会

委員長 大 森 彌 殿

独立行政法人国立公文書館

監事 新 保 博

監事 文 田 久



平成15年度独立行政法人国立公文書館年度計画の実施状況  
について（報告）

標記について、監事として別紙のとおり報告する。当館報告と併せお目通しいた  
だき、適切な評価を賜りたい。

(別紙)

- 1 漢詩の絶句は、起承転結の4句をもって構成されるが、これに準え本館の業務運営に関する中期目標の実施期間をみるに、平成15年度は、その第3句の「転」の時に当たる。起こし、受け、そしてこれを発展させるこの第3句の出来不出来は、詩の良し悪しを決定する。

平成15年度における本館の年度計画の実施状況を総括すれば、この「転」の趣旨を体し、各般の業務を適格に発展させたといえる。同計画は、①業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置、②国民に対し提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置をその柱として定めているが、①にあっては、目録作成等のマニュアルの改訂を行い、これに基づき目録の作成が外部委託（パートタイマー）によって鋭意進められ、目標どおり平成15年度に受け入れた公文書等を同年度中に公開に付したこと、同時に、これに要する経費の縮減にも努めていること、また、部内研究連絡会議を活発に開催し（11回）、各般の課題がこれに付議・検討され、解決策を生む等活き活きとした業務の執行体制が敷かれていること、②にあっては、利用者の利便を図るべく、マイクロフィルムへの媒体変換を計画どおり推進したこと、また、ホームページ等の充実を図り、積極的に館業務の広報に努めていること、例をアジア歴史資料センターへのアクセス件数にとれば、平成13年12月の同センター発足以来の延件数が55万件（平成14年度末20万件）に上る等、公開と利用という館アーカイブズの使命を着実に進めている証左としてこれを高く評価したい。そのほか、国の保存利用機関と連携した利用者の利便性向上のための検討連絡会議を主宰し、その構成メンバーの拡充や各HPのネットワーク化の実現に向けて真摯に取り組んでいることも将来の結実が期待できる動きとして評価しておきたい。

さらに、各府省からの公文書等の受入れについては、従来行っていた「移管に関する事務連絡会議」を平成15年度から「移管に関する主管課長会議」に格上げし、また、館長自ら各府省事務次官等を訪ね、行政部門のトップに直接移管促進の働きかけを行うなど努めているところである。

その結果、内閣法制局の法令審査記録4,329ファイルに上る移管等をみていることは喜ばしい限りである。今後とも、これら地道な努力を重ねられ、より一層移管の促進が図られることを願って止まない。

- 2 平成13年度及び14年度、館においては、各年度計画を着実に実施し、府評価委員会からも高い評価を受けているところであるが、平成15年度の事業実施状況についても、過去2年度の業務実績を上回る程の充実した成果を挙げているものと監事として判断しているところである。貴評価委員会の適切な評価を願う次第である。
- 3 本館業務の更なる充実強化のため、「公文書等に関する適切な管理、保存及び利用等に関する懇談会」が内閣府に置かれているが、これまでの各委員等の真剣な取組みに対し、深邁な敬意を表するとともに、実りある提言を監事としても衷心より期待して止まない。

以上